



「確かな学力を育む学習指導の研究」 —基礎基本の確実な定着を目指して—

研究主題

あいさつ

校長 矢島 義雄

本校は、熊谷市教育委員会から、平成25・26年度の2年間にわたり、学習指導研究校として委嘱を受け、確かな学力を育むため、学習指導の研究を進めてまいりました。また、「熊谷の子どもたちは、これができます!『4つの実践』と『3減運動』」を土台に、わかる授業による基礎基本の確実な定着、学習環境の整備による学習意欲の向上を目指して取り組んでまいりました。本日は、これまでの研究の一端を発表させていただきます。御参会の皆様にご理解のない御意見・御指導をいただき、今後さらに研究を深めてまいりたいと考えております。結びに、これまで御指導をいただきました熊谷市教育委員会の先生方並びに関係者各位に心より感謝申し上げます、あいさつといたします。

I 研究の概要

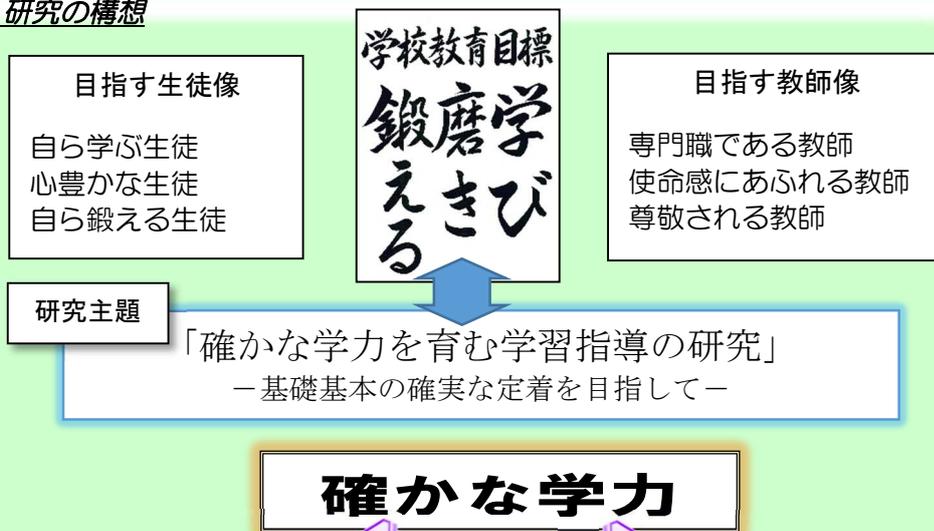
1 主題設定の理由

現行の学習指導要領において、「生きる力」の育成が求められている。「生きる力」の知の側面として「確かな学力」の育成がある。「確かな学力」の育成のためには、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力といった発展的な学力を身に付けさせることが必要であり、それと同時に学習意欲の向上を図ることも必要である。本校の生徒は諸調査の結果によれば基礎的・基本的な学習の定着が十分でない生徒が多いという現状がある。そこで、本研究では基礎的・基本的な学習の定着を目指して、学習指導法に主眼を置いて研究することとし本主題を設定した。

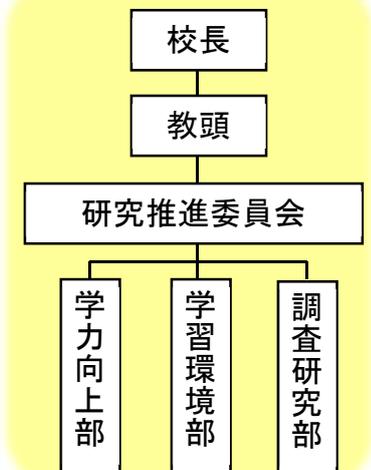
2 研究の仮説

- <仮説①>わかりやすい授業を展開し、個に応じた支援を充実させることによって、基礎的・基本的な学習が定着するであろう。
- <仮説②>学習環境を整えることにより、自ら学習に取り組む姿勢が育ち、学習意欲が向上するであろう。

3 研究の構想



4 研究組織



<仮説①の手立て>

- ・学習課題の明確化
- ・授業形態の工夫
- ・校内授業研究会の実施
- ・ガッチリ勉強の実施
- ・基礎学力の時間の取組
- ・補充学習の実施

<仮説②の手立て>

- ・「授業の約束」の見直しと徹底
- ・教室の前黒板の整理
- ・教科コーナーの設置
- ・学習コーナーの設置

熊谷の子どもたちは、これができます! 大人が手本になって

4つの実践

- ① 朝ごはんをしっかり食べる。
- ② 呼ばれたら「はい」と元気よく返事をする。
- ③ 「ありがとう」「ごめんなさい」と言う。
- ④ 友だちをたくさんつくる。

3減運動

- ① テレビの時間を減らします。
- ② ゲームの時間を減らします。
- ③ 携帯電話やパソコンに触れる時間を減らします。

(4) ガッチリ勉強の実施

家庭学習の習慣化及び学習意欲の向上を目指す。

- 定期テスト前2週間に「ガッチリ勉強（ガチ勉）」期間を設定した。「提出状況表」を職員室前に掲示し、クラス対抗で自主学習ノート提出率（提出生徒人数/出席生徒人数）を競い合った。目標を達成したクラスには、「ガチ勉賞」を授与し、意欲の向上と家庭学習の習慣化を図った。

		第1回 ガッチリ勉強（ガチ勉）						
学年	組	月/日	5月16日	5月19日	5月20日	5月21日	5月22日	5月23日
		曜日	金	月	火	水	木	金

2年	2組	出席者数	28	27	26	27	84.3%	28	28	28
		提出者数	29	29	30	29	117/123	30	30	31
	3組	出席者数	31	30	31	31	95.1%	31	31	31
		提出者数	29	29	29	30	118/118	29	30	30
パーフェクト		①	①	①	②		②	②	③	



成果 「ガッチリ勉強」により、家庭学習の習慣化が図れた。自分なりの学習方法を工夫する生徒も増えた。

(5) 基礎学力の時間の取組

国語と数学の基礎基本の定着を図る。

- 月曜日の第6校時は、「基礎学力の時間」とし、国語は漢字の読み書き、数学は基本的な計算を中心とした小テストとグループ学習を行った。基礎学力の時間でも、グループ学習を取り入れ、学び合いの時間を設定した。



◎1時間内の進め方（基本的なパターン）

国語 「テスト」10分+「自己採点」5分

合格者……同じ範囲の別バージョンで
「自習」20分+「テスト」10分+「自己採点」5分
不合格者…同じテスト
「自習」20分+「テスト」10分+「自己採点」5分
→ 用紙記入・テスト回収

数学 「テスト」15分+「自己採点」3分+「グループ学習」22分
+「抜粋テスト」5分+「採点」3分 → 用紙記入・テスト回収

※自習の仕方

- ①グループ内に不合格者有りの場合 学び合い活動
- ②グループ内に不合格者無しの場合 個人で、次回予習

成果 国語と数学の基礎的・基本的な学習が少しずつ定着してきた。

(6) 補充学習の実施

① テスト前補充学習

定期テスト前3日間の放課後に、国語・社会・数学・理科・英語の5教科で実施した。各学年の教科担当者が、生徒の質問に答える形で学習した。



② 夏休みの教科学習会

国語、数学、英語の3教科で実施した。補充が必要な生徒（事前に確認テストを実施）や希望者が参加し、合計12日間、1日1時間の補充学習を行った。



成果 テスト前補充学習は、自主参加であったが、学年によっては半数以上の生徒が参加するなど、学習に対する意欲を高めることができた。生徒の質問に答える形で学習していくことにより、わからないことを減らし、テストに安心して取り組める生徒が増えた。さらに、自ら進んで学習に取り組もうとする姿勢も育むことができた。夏休みの教科学習会では、学習に苦手意識をもつ生徒に、よりきめ細かい指導をすることができた。

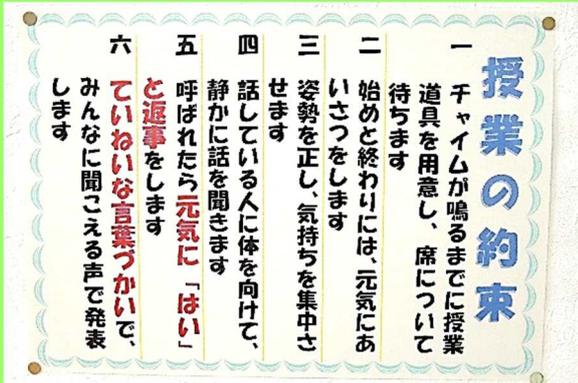


2 学習環境部

学習環境部では、「生徒が規律を守り、集中して、意欲的に授業を受けられるようになること」、「生徒が家庭学習の習慣を身に付けること」を目指し、4つの取組を行った。

(1) 「授業の約束」の見直しと徹底

わかりやすい表現に改め、各教室に掲示した。



成果 チャイム着席や授業準備など、授業規律の確立につながった。

(2) 教室の前黒板の整理

黒板には、授業の内容のみを書くようにした。



成果 黒板を広く使えたり、生徒が授業に集中して取り組めるようになった。

(3) 教科コーナーの設置

各教科ごとの学習に関する掲示物を作成した。

国語



数学



理科



英語



社会



成果 足を止めて掲示物を見る生徒が増え、各教科に対する興味・関心が高まった。

(4) 学習コーナーの設置

各学年のフロアに学習コーナーを設置した。

- ・家庭学習用のプリントを準備。
- ・家庭学習のアドバイスや自主学習ノートのよい例を掲示。

家庭学習のアドバイス

プリントを入れておくレターケース



(2) 「授業中にはできない学習をしよう！」編

- ①新聞のコラムや記事を読んで語句の読みや意味を調べたり、感想を書こう。(いろいろな考え方を知り、自分の考えを持ち、思考力を高める。自分の感想を書くことで、表現力を身に付ける。)

① 難解漢字(読み)	ひとしお	感慨	横る	① 難解語句	意味
土俵	どろろ	相撲	すまう	ひら	文筆をつとめる。
どろろ	しろうしん	相撲	すまう	ひら	身にしみ感にひたす。
昇舟	笠	相撲	すまう	ひら	身にしみ感にひたす。
笠	問題	相撲	すまう	ひら	身にしみ感にひたす。

成果 授業とリンクしたプリントを置くことで、家庭学習が苦手な生徒が持ち帰ったり、自主学習ノートを毎日提出する習慣を作る一助となった。

3 調査研究部

調査研究部では、生徒の実態を把握するため、年3回、生徒アンケートの実施・集計・分析を行った。

(1) 校内アンケートの結果より

グラフの数値は「とてもあてはまる」「まあまああてはまる」と回答した生徒の合計の割合。

『授業を受けることが楽しみですか?』



昨年度の3回のアンケート結果では、『授業を受けることが楽しみ』と回答した生徒の割合が伸びている様子が見られた。今年度7月のアンケートでは前述の割合がやや落ち込んでいる様子が見られるものの、25年度の2年生（取組前）と26年度の2年生（取組後）の比較では、6.7%の伸びが見られる。

『授業の約束』を守っていますか? (チャイム着席・挨拶・道具の準備等)』



どの教科においても、「授業の約束」を守る意識が高くなっている様子が見られた。各学級の学級委員や生活安全委員が中心となり、呼びかけを行うことで、多くの生徒の意識向上につながったことが伺える。

『毎時間の授業内容を理解できていますか?』



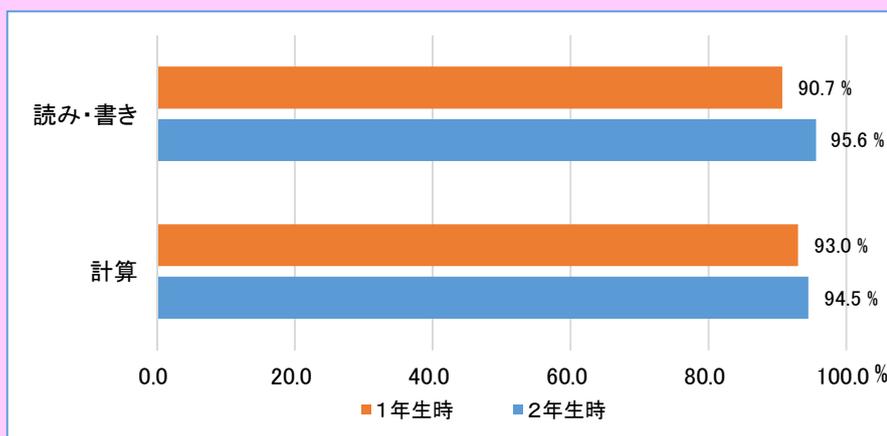
昨年度の3回のアンケートの結果では、『毎時間の授業内容を理解できている』生徒の割合が伸びている様子が見られた。今年度7月のアンケートでは前述の割合がやや落ち込んでいる様子が見られるものの、25年度の2年生（取組前）と26年度の2年生（取組後）の比較では、7.4%の伸びが見られる。

(2) 「ガッチリ勉強」の取組

	平成 25 年度			平成 26 年度
	前期期末	後期中間	後期期末	前期中間
目標達成率	90%	95%	95%	90%
ガチ勉賞（目標達成） ※全 10 クラス中	6 クラス	7 クラス	7 クラス	10 クラス
100%達成 ※全 10 クラス中	1 クラス	1 クラス	4 クラス	3 クラス

昨年度からの全 4 回のガチ勉では、回を追うごとに目標達成クラスが増えていることがわかる。取り組み前に比べ、家庭学習に取り組む生徒が確実に増えてきている。

(3) 平成 24 年度と平成 25 年度の『3つの達成目標(学力)』の比較



現 3 年生の 1 年生時（取組前）と 2 年生時（取組後）の達成率を比較すると、学力面での大きな伸びが生じたことがわかる。本校で取り組んだ、学力向上のための様々な取組が、基礎基本の定着に効果があったと思われる。26 年度については、1 月に学校独自で『3つの達成目標(学力)』のテストを行い、さらに検証を進める予定である。

III 成果と課題

研究の成果

- ・プレートを活用することにより、生徒が見通しをもって授業に参加でき、学習意欲や集中力が高まった。また、教師が授業の流れや学習内容を意識した授業を展開するようになった。
- ・「ガッチリ勉強」の取組や「学習コーナー」の設置により、家庭学習の習慣化に効果があった。
- ・「教科コーナー」の設置により、興味・関心が高まり質問をする生徒が増えた。
- ・「授業の約束」の徹底や、教室の前黒板の整理により、生徒が授業に集中できるようになった。
- ・「教育に関する 3 つの達成目標」の「読み・書き」「計算」の結果から基礎学力の向上が見られた。
- ・「テスト前補充学習」には、予想以上に多くの生徒が参加するようになった。
- ・「夏休みの教科学習会」には、不登校の生徒も参加するようになり、学校復帰の機会の一つとなった。

今後の課題

- ・「ガッチリ勉強」期間に限らず、自主学習ノートの提出率は非常に良くなった。しかし、その内容にはまだ改善の余地があり、授業内容の定着が図れるような工夫が必要である。
- ・校内授業研究会を継続的に行い、「授業の流れ」や「板書の工夫」について共通理解が図れたが、個々の教師の指導力向上を今後も目指す必要がある。
- ・「学習コーナー」や「教科コーナー」を定期的に更新し、生徒の意欲を継続させる努力を今後も続けていく。
- ・「テスト前補充学習」に多くの生徒が参加し、個に応じた支援が難しくなった。実施方法を検討していく必要がある。